

八斗二斗前に大山は属にといふは是なり
後年修く 古代ハ仁加保玄庵及伝教の因之
を後正河上酒井家（此所）天和元年（西暦
月左傳）射敵市年去沙嫡小又邦殿十に
法幼少より 公義より天和二年戌八月
保科之親友二子子阿初ハ之を成此下座内
此領而巡見之傳付其時之親友家郷士陣田
宅志忠の巡見記を編集し其申よ云八月
十日大日寺に詣りちふあふに 此之祥雲之降云
其より又十丁まで飢渴來といふあり將

乃ば休石といふ有境論あり此料ハ休石
境目といふ境域此所よりハ飢渴來境目の
より中よりけ本砂中にある年よは
隠れぬ年よハ取れりりなよ古俗けりち
本といふと有り日記ハ中利沙料よりハる
石とあり後年修く因相家故ありてその増
ふも如へり

一 諏訪大明神

関村より多神健市名方令之七月廿七日
参礼あり社既ハ砂を並其中に幣をさきて